学校番号	404

令和5年度　　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	「日本史B　新訂版　」（実教出版）						
副教材等	図説日本史通覧（帝国書院）						

1. 担当者からのメッセージ（学習方法等）

講義形式の授業を中心にしながらも、教科書や史料から問題を解いたり、プロジェクターの使用やDVDなど視聴覚教材も利用し、授業への興味関心を高めていく。一方通行の講義形式にならないように注意する

2. 学習の到達目標

原始時代、古代国家の社会や文化の特色を学び、歴史・文化に対する興味と関心を高める。武家政権成立という我が国の歴史的過程を政治面だけではなく、公家勢力や旧仏教勢力が担っていた生活や文化の特色にも着目し、さらに地域的な特色にも理解と知識を深め、国際社会を主体的に生きる、民主的な社会の一員としての自覚を養う

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	ダイナミックに変化する歴史展開に対して関心と意識を高め、国際社会にかかわり、主体的に生きる人としての責任を果たそうとする態度をはぐくむ	歴史の展開からそれぞれが課題を見いだし、世界史的視野を忘れず、我が国の文化・伝統の認識を深め、多角的な考察からの発表ができること	当時の諸史料に親しみ、活用することで、政権が目差した意図を理解するとともに、庶民の考え。行動を考察する	古代から近代への我が国歴史の展開を、アジア・欧米など世界史的視野から総合的に理解し知識を深める
評価方法	授業中の発言や質問、課題への積極的な取り組み姿勢（ノートやプリントの積極的な提出）	文章表現能力の確認（考査における論述や発表会における相互評価など点数化する）	発表における文献、絵画、地図などの資料の適切な活用を相互評価とともに、担当者による点数評価をおこなう。	課題や小テスト、定期考査などにおいて知識定着を確認、点数化によって評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4．学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	原始・古代 中世	日本文化のあけぼの 水稲農業の開始と社会生活の進展 東アジア文化の影響と律令制度の成立 摂関政治と国風文化文化	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○	 ○ ○ ○	a：原始・古代の日本社会の成り立ちを理解し、原始・古代から中世への変遷に関心を持ち、意欲的に授業に集中し、史料に接している b：日本の歴史をアジアの動きとの関連も考え、多面的多角的に考察している c：諸史料を読みこなし、有用な情報を選択して、自分でまとめる d：時代の変化を、基本的な事項を理解し、世界の動きと関連して理解し、その知識を身につけているか	定期考査 ノート・プリント 課題提出 授業中の発問への答え
2	中世 近世	中世社会の成立と文化の新機運 武家社会の展開と室町文化 幕藩体制の展開と近世の文化	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○	a：アジア地域との関係と成長する庶民を中心とした国内の動き、新しい国際関係を意欲的に考察しているか b：ヨーロッパとの出会いと影響との関係を考え、多面的多角的に考察する c：史料・文化の特徴などから、探したい情報を選択し、自分でまとめる d：世界の動きとの関係を理解し、鎖国などの対外政策の意味を深く考え、知識を深める	定期考査 ノート・プリント 課題提出 授業中の発問への答え

3	近世	幕藩体制の動揺と文化の成熟	○	○	○		a：江戸期の文化の発展と海外の動き、それに巻き込まれる日本を関心を持ち考察する b：鎖国政策の影響を多面的多角的に考察する c：文化にこめられた庶民の思いを史料から考察し、江戸庶民の生き様を整理して理解する d：開国前の江戸期の社会を多面的に理解し知識を深める	定期考査 ノート・プリント 課題提出 授業中の発問への答え

※ 表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現

c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。